ご自由にお持ちください

魚沼市・十日町市・津南町
南魚沼市・湯沢町・そして周辺

越後魚沼

越後魚沼は雪ありてこそ輝く

雪ありて

越後魚沼探訪
南魚沼・中魚沼・北魚沼エリアを行く

第８号
〈2018年6月〉

第７回 大地の芸術祭 … 2–3
夏の魚沼見どころとイベント … 4

八海山は修験道の信仰の山である。その裾野の三か所で火渡り神事が行われる。5月の大倉口坂本神社、6月の城内口八海神社、10月の大崎口八海山尊神社である。
写真は昨年6月に行われた城内口八海神社の火渡り。巫女による奉納舞いが特徴となっている。
編集部　酒井　建

季節の花

臼の木
画・外山康雄

Thanks to Snow　A Dragonfly in Heaven

Echigo-Tsumari Art Triennale. What is that? It sounds like some kind of art festival that is held every three years. But what kind of art?

My first Echigo-Tsumari Art Triennale was in 2012. I saw this particular artwork at Kinare Museum. In the big courtyard, there was a huge pile of old, dirty clothes. On top of the pile, a big crane was grabbing some of the clothes randomly. I was hit by the sense of the Holocaust. They said the artist was globally known. Well, I didn't know him nor about contemporary art at all, but I felt something from this art. After that, I started to visit many art exhibits that were located in the mountains to "feel" something.

At my second triennale in 2015, I made one of the happiest discoveries, which was encountering local foods. I fell in love with some restaurants that were opened only during the festival. As a vegetarian, I thoroughly enjoyed the locally grown vegetables that were transformed into Grandma's home made food or a stylish modern dish.

I decided to make one step forward. I'd experienced two triennales as a visitor. This year I will be a part of it --- working as a volunteer. It's an adventure and I expect to discover something new.

大地の芸術祭ってなんだろう？　その答えが最近やっとわかってきたかもしれない。

地元の食材を使った食べ物との出会い。芸術祭限定のレストランには何度も通った。３年ぶりにあのご馳走が食べられると思うと幸せになる。

作品を見るために山の中に入る。せまい急な山道。とんでもないところに人の姿を見つけて、慌てて逃げ出す狐やたぬきを見かけて興奮した。

でも、芸術祭の一番の醍醐味は、作品を鑑賞するだけでなく、作品作りや管理に参加して、地元の人たちと交流することだと思う。

今年はボランティアで参加させていただく予定です。新しい経験、新たな出会い。ワクワクすることがたくさん待っている大地の芸術祭 2018。

土井ひとみ　Hitomi Doi

内海昭子
「たくさんの失われた窓のために」
(Photo by H.Kuratani　倉谷拓朴)

3年に一度開催されている人間の土地と美術の芸術祭「大地の芸術祭 越後妻有アートトリエンナーレ」が、まもなく越後妻有地域（十日町市、津南町）で開催されます。

アートを媒介として地域の魅力を高め、世界に発信して行く手法が注目されています。回を重ねるごとに、参加作品数も、来場者数も増えていて、全国各地から、また世界各国からの来場者が多いことも大きな特徴です。

「大地の芸術祭 越後妻有アートトリエンナーレ」は、3年に一度、越後妻有地域（十日町市、津南町）で開催される一大イベントとして知られます。

その歴史と規模について。

第1回（2000年）32の国と地域から148組のアーティストが参加、作品数153点を28集落で展示。来場者16万2、800人。

第2回（2003年）23の国と地域から157組のアーティストが参加、作品数224点を38集落で展示。来場者20万5、100人。

第3回（2006年）40の国と地域から225組のアーティストが参加、作品数329点を67集落で展示。来場者34万8、997人。

第4回（2009年）40の国と地域から353組のアーティストが参加、作品数365点を92集落で展示。来場者37万5、311人。

第5回（2012年）44の国と地域から310組のアーティストが参加、作品数367点を102集落

地球環境時代の美術、大地の芸術祭

Art of the Anthropocene:Echigo-Tsumari Art Triennale

大地の芸術祭では、ここに暮らす人々が自然の中で生きていくために培ってきた創意工夫、技術、労苦の結晶である棚田や瀬替え、土木工事こそが人間と自然の関係を表していると考え、その礎の元にアート作品を配置・展開してきました。その軌跡をたどりながら2018年の芸術祭を堪能する、ランチ&ガイド付き日帰りツアーの決定版「オフィシャルツアー（2コース）」は、大地の芸術祭が考える、人間が自然・文明と関わる術を追体験する旅。里山とアートを巡る旅は、まさに地球環境時代の美術の起点となります。

越後妻有里山現代美術館［キナーレ］、レアンドロ・エルリッヒ、作品イメージ
Echigo-Tsumari Satoyama Museum of Contemporary Art, KINARE Leandro Erlich, 2018 proposal

オフィシャルツアー

［毎日２コース運行］

カモシカぴょんぴょんコース
（里山・土木編）
傾斜地に営々と築き上げられた棚田、蛇行する河川の流路を変えてつくった瀬替え田を見渡しながら、越後妻有を横断するコース。ミシュラン星付きシェフ監修によるスペシャルランチ付き。

シャケ川のぼりコース
（信濃川・河岸段丘編）
約40万年前から始まった土地の隆起、信濃川の浸食作用で形成された河岸段丘を見ながら越後妻有を横断するコース。芸術作品でのランチ付き。

まつだい「農舞台」／「イダキ：ディジュリドゥとオーストラリアの大地の音」展、イメージ
Matsudai Nohbutai, Exhibition "YIDAKI:Didjeridu and the sound of Australia", 2018 proposal

マ・ヤンソン／MAD アーキテクツ，パノラマステーション作品イメージ
Ma Yansong ／ MAD Architects, Panorama Station

香港ハウス、参考イメージ
Hong Kong House, 2018 proposal

越後妻有里山現代美術館［キナーレ］2018夏企画展

2018年の〈方丈記私記〉

～建築家とアーティストによる四畳半の宇宙～

均質化した世界を「四畳半」から照射する、これまでにないかたちの展覧会。多様な出自のアーティストや建築家たちのアイデアが詰め込まれた30の方丈が、未来の街の縮図を織りなす。

GRAPH ＋ 空間構想
「KARAOKE & HUMANKIND」

小川次郎／アトリエ・シムサ「そば処 割過亭」

KIGI「スタンディング酒 BAR 酔独楽・よいごま」

カサグランデ・ラボラトリー
「Echigo-Tsumari Public Sauna」

ディスカバー 越後魚沼

雪国の花木、タニウツギ

各地で田植えが進み、水鏡がまぶしい季節となりました。この時期、魚沼地方では、山裾や田の法面が桃紅色に染まります。この桃紅色、実は「タニウツギ」というスイカズラ科の落葉低木の花々です。タニウツギは日本海側に広く分布する雪国の木であり、新潟県内でも山野や人里にごく普通にみられます。一面タニウツギという場所も珍しくはありません。

身近なためか、タニウツギには新潟県各地に数多くの方言や逸話があります。例えば、十日町や長岡などで用いられる「タウエバナ」、「タウエボチボチ」、「サオトメバナ」。この方言名はタニウツギが田植えの頃に花咲くことに由来します。「タウエバナが咲く頃に田植え」というように、タニウツギの花は田植え時期の目安にもなったようです。また、本種の花は、ワラビ、ゼンマイ、チシマザサ（山タケノコ）等の山菜採集時期を決める目安にもなったそうです。

長岡周辺では「カテバナ」、「カテノキ」などとも呼ばれます。凶作の際に、灰汁抜きした葉をヒエやアワに混ぜ、カテ飯にしたことに由来するそうです。

道具に関する名もあります。枝を火箸や菜箸として使ったことから、津南や松代では「ヒバシノキ」とも呼ぶそうです。松代ではチャンバラに使うことから「カタナンキ」という名があります。

タニウツギには「カジバナを家に持ってくると火事になる（新潟県各地）」、「ダニバナは持ってくんな、ダニくっつく（妙高高原）」などの逸話もあります（ダニバナ、カジバナはタニウツギを指します）。また、タニウツギを家に持ち込むと、蚕に悪影響を与えるダニや昆虫も侵入すると言われています。火事、ダニ、蚕の保護等、様々な理由のため、タニウツギの家への持ち込みは禁じられていたようです。

この他にもタニウツギには多くの名や逸話があります。身近な有用木であり、嫌われた木でもあるタニウツギ。雪国を代表するこの花木には、かつての雪国の生活や産業の記憶が残されています。参考文献：梅田治1991新潟県植物保護10：10～15頁

里山科学館「森の学校」キョロロ

岡本太郎画伯が愛した越後のそば処

厳選した地元そば粉を石臼でひき、打ち、精選されたそば粉を混ぜ合わせて布海苔でつなぐ自家製粉にこだわっています。そば通を唸らせる独特の舌ざわりと歯ごたえ、つるっとした喉越しは格別。高級絹織物の伝統産地、十日町が育んだ「そば」の味をご堪能ください。

故岡本太郎画伯書

名代生そば 由屋
十日町市土市4　TEL025-758-2077
営業時間／10:30～18:30　定休日／火曜日

千手温泉でゆったりの～んびり夢心地

温泉ファンから高い評価をいただいている千手温泉「千年の湯」。加温も循環もしていない正真正銘、源泉かけ流しの温泉は、薄茶褐色のお湯。湯あたりしにくいお湯は、お肌に絡みつくように、しっとりすべすべに…。
お食事はメニューも豊富で、10店舗の専門店から美味しい料理が選べます！

千手温泉 千年の湯
十日町市水口沢121-7
TEL025-768-2988
営業時間／10:00～22:00
〈年中無休〉

越後の地酒や名産のそばも豊富に揃う

津南高原の朝採り野菜や魚沼産コシヒカリ、にんじんジュース
地元の農産品、特産品を販売。館内には食堂「とんかつ つまり」も併設

美味しい地野菜が豊富な津南食彩館

ボリューム満点のジャンボとんかつ

津南観光物産館・津南食彩館
TEL025-765-5008　FAX025-765-2949
新潟県中魚沼郡津南町芦ヶ崎乙203（R117号沿）
営 9:00～18:00（秋まで休まず営業） http://www.aji-y.com/

四季を通じてアートとスポーツと文学を満喫できる公園の中の美術館

野球・オリンピック・相撲の三本柱を中心に、多彩なスポーツコレクションを展示。小泉八雲、會津八一、エレオノラ・ラグーザの常設展ほか、地元美術家やゆかりの作家の展覧会など企画展も常時開催しています。

池田記念美術館
南魚沼市浦佐5493-3　TEL 025-780-4080
■開館時間／9:00～17:00（入館は閉館の30分前まで）　■休館日／水曜日
■駐車場／有り　■入館料／一般500円（高校生以下無料）
※その他展示変更のため臨時休館する場合がございます。 ※年間パスポート好評発売中

旅情さそう日本秘湯を守る会の宿

肌に優しい
源泉掛け流し薬湯

渓谷を望む
宿泊客専用露天風呂

上杉謙信公ゆかりの薬師如来像のお告げによって掘り当てられた温泉。採れたての山菜や川魚料理など、四季折々の味覚を心ゆくまで楽しむことができます。

清津館（きよつかん）
新潟県十日町市清津峡湯元温泉
TEL025-763-2181　FAX025-763-2535
http://www.kiyotsukan.com

苗場山登山や街道沿いのトレッキングにどうぞお立ち寄りくださいませ ―

けんちんもつ煮汁

街道の湯

道の駅みつまた
〒949-6211 南魚沼郡湯沢町大字三俣 1000 番地　TEL025-788-9410
営5月～11月 9:00～17:00（無休）、12月～4月 10:00～19:00（火曜定休）
http://michieki-mitsumata.jp

で展示。
来場者48万8、848人。
第6回（2015年）35の国と地域から約350組のアーティストが参加、作品数378点を110集落で展示。
来場者51万690人。
そして迎える今年の第7回は、2018年7月29日(日)から9月17日(月)、51日間にわたって行われます。

草間彌生「花咲ける妻有」（Photo by Osamu Nakamura）

十日町市や津南町は**「大地の芸術祭の里」**として、年間を通してワークショップやイベントが開催されています。
国内外から集まるボランティア「こへび隊」と地元有志による「地元サポーター」が運営に加わり、作家、地域住民とともに地域づくりを進める姿が浸透してきています。こうした協働の形もまた大地の芸術祭の特徴です。

ディスカバー越後魚沼

じつは、『北越雪譜』を読んでいなくて…

「この雪は何年で融けるのですか？」と聞かれたことがあります。「春には消えていますよ」「本当ですか。」
私たち魚沼人にとって、冬の降雪はつねに想定内です。季節がくれば雪は必ず降ります。それも比較的たくさん…。
すこし前に、知人とこんな会話をしました
「朝起きて一晩で三〇センチくらいなら許せるけど、五〇センチ以上だと嫌だよね〜。」と。
雪は毎日、降り続くことがあります。なまり色の空、二日で二メートルくらい積ることもあり、それでは終わらずその後も続きます。
「雪掘りで身体はクタクタよ…。」
雪の降らない地方にドカ雪が降ってしまうと大変です。電車が止まった、国道で車が立ち往生したと大ニュースです。初めて雪が降ったかのように報道されます。
新潟県が越後であった頃、まだ写真もテレビもない時代、人々は地方の風土などなかなか知る機会はありません。今の自分たちの生活が普通と思っていました。
江戸時代は天明の頃、峠を越えた向こうには違う風土がある。そこの人々は雪国を知らない。と思った人がいました。
商売で江戸に行ったことのある塩沢の鈴木儀三治です。儀三治は商人ですが、多趣味で才がありました。俳諧もその一つで、俳号を「牧之」といって晩年まで句作を楽しみました。
牧之が客観的な視点から雪国を記録し、それを友人知人に見てもらうだけでなく、版木におこして出版し、本にできたことが成功でした。皆さんから「いいね」をいただき、牧之の名は後世にのこりました。
「凡天より形を為して下す物・雨・雪・霰・霙・雹なり。　後略。」
およそ天から降ってくるもの、私の地方はこれです!!　で書きはじまります。
雪がテーマの『北越雪譜』、読んでないあなたに読んでいただけたらと思います。
鈴木牧之記念館

雪国ならではの縦信号

「森の学校」キョロロ
「空間×体験！ 里山のミクロとマクロのいきものラボ」、作品イメージ

子供が楽しめるアート

動物をモチーフにした作品群や遊べる作品、作家と一緒につくるワークショップ、奇想天外なアートなど、大自然のなかで家族とアートに触れあえる。

アートや廃校での宿泊体験

古民家を使ったアート作品や木造の小学校が宿泊施設としても利用可。眠る行為をアート化した宿泊施設もあり、他にはない特別な宿泊体験ができる。

「オーストラリア・ハウス」アンドリュー・バーンズ・アーキテクト
"Australia House" by Andrew Burns Architects

越後まつだい里山食堂
Echigo-Matsudai Satoyama Shokudo

上郷クローブ座レストラン
Restaurant Kamigo Clove Theater

うぶすなの家
Ubusuna House

女衆（おんなしょ）の家庭料理とお米でおもてなし

地元女衆が各集落で採れた米や肉、野菜を土産土法でもてなす、古民家アート兼レストランや芝居風レストランがオープン。

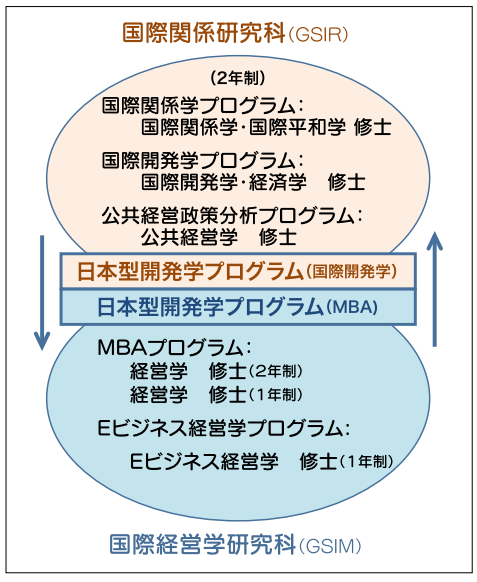
未来を育む小さな地球　国際大学（IUJ）

国際大学 INTERNATIONAL UNIVERSITY OF JAPAN

南魚沼から広がる国際交流

International University of Japan

八海山のふもとに、世界各国から数多くの学生が集まる大学院大学がある。その名も国際大学（通称IUJ）だ。グローバルに活躍できるリーダーを育てるため、日本興業銀行相談役だった中山素平が、当時の経済四団体のトップ（佐々木直、土光敏夫、永野重雄、水上達三）とともに1982年に設立した。在学生は2018年5月の時点で60カ国・地域、約360名にのぼり、およそ85％は外国人学生である。平均年齢は29歳で、一般入試による学生の他、JICA、国際通貨基金（IMF）、政府などの派遣生なども在学し、国・世代の垣根を超えて学びの場を提供している。学生たちは、原則学生寮に住み、24時間学べる環境の中で、学生自治会による課外活動やクラブ活動も楽しんでいる。これまで123カ国・地域、4,200名を超える修了生は、この地で築いた強固なネットワークでつながり、世界中で活躍している。
また、キャンパス内の売店には、焼きたてパンや輸入食品、キャンパスグッズもあり、食堂でもハラル対応・英語表記などグローバルな配慮がされている。「日本にいながら海外にいるような雰囲気を楽しめるので、気軽に利用してほしい」と大学関係者は微笑んだ。



国際大学　正面

クラスルーム

南魚沼で世界と触れ合う

IUJ International Festival

ヤマツツジの花が見頃を迎えた5月12日、国際大学の学園祭であるインターナショナル・フェスティバルが南魚沼市の協力のもと開催された。野外会場には世界各国の美しい民族衣裳を着た学生たちが集い、20カ国・地域もの学生による料理がふるまわれた。体育館では学生や地元の有志によるステージパフォーマンスが披露され、学生や観客を問わず皆が一つになって歌い踊り大いに盛り上がった。また、今年は南魚沼市と共催で「国際握飯（にぎりめし）祭」が特別開催され、アジア・アフリカ等12カ国8チームが参加し、その国らしい食材や味付けのおにぎりが楽しめた。

国際握飯祭 ベトナムチームの発表

ベリーダンスクラブ

民族衣裳をまとった学生たち

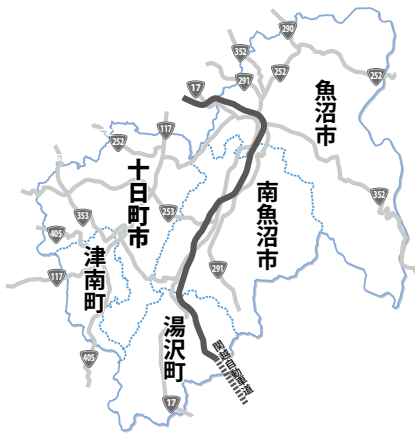
お問い合わせ先：国際大学（IUJ）入学・就職支援室
南魚沼市国際町 777 番地（浦佐駅より送迎バスで約 15 分）
☎ 025-779-1104　　http://www.iuj.ac.jp/jp/

今後のイベント
6月23日（土）　修了式（於 小出郷文化会館）
7月31日（火）　オープン・キャンパス（志願者向け）
※その他、IUJスキーデー（2月）、日本語発表会（4月）なども開催

雪ありて

Information
2018年6−7月

山紫水明の地に遊ぶ



ダム湖百選 奥只見湖（魚沼市）
日本最大級の人造湖で、山々を湖面に映し出す景観は北欧を思わせる。湖上遊覧は11月8日まで運行、こども船長体験は7月14日〜8月31日まで毎日開催。
問奥只見観光㈱☎025-795-2750

北魚沼
奥只見の大自然

写真／苗場山麓ジオパーク振興協議会

秋山郷・中津川渓谷（津南町・栄村）
全長30㎞の中津川渓谷に小さな集落が点在する景勝地。新潟の橋50選の一つ「見倉橋」は木製の美しい吊り橋で、映画「ゆれる」の舞台にもなった。
問津南町観光協会 ☎025-765-5585・栄村役場秋山支所 ☎025-767-2202

写真／苗場山麓ジオパーク振興協議会

津南ひまわり広場（津南町・沖の原台地）
7月27日〜8月19日（予定）。河岸段丘の高台に広がる畑が黄色に染まる。ひまわり迷路や露店市も開催される。
問津南町観光協会☎025-765-5585

あじさい公園（十日町市八箇）
14,000株のあじさいが5.8haの斜面に咲き誇る。見ごろ7月上旬〜中旬。
問（一社）十日町市観光協会
☎025-757-3345

新潟県唯一の尾瀬街道
魚沼市から行く尾瀬は、交通手段も車・船・バスと多彩。徒歩区間約1時間と比較的短く、初心者も楽しめる。問(一社)魚沼市観光協会 ☎025-792-7300

月岡公園（魚沼市堀之内）
魚沼市は県内最大のユリの生産地。月岡公園の花ひろばを一万本のユリが彩る。見ごろは7月上旬。問（一社）魚沼市観光協会☎025-792-7300

日本三大峡谷　清津峡（十日町市）
黒部峡谷・大杉谷と並ぶ日本三大峡谷の一つ。大地の芸術作品とのコラボレーションで魅力的にリニューアルした清津峡渓谷トンネル(全長750m)を歩き、3ヶ所の見晴所とパノラマステーションから雄大な渓谷美を安全に鑑賞できる。
問清津峡渓谷トンネル
☎025-763-4800

中魚沼
深緑の渓谷

南魚沼
高原の展望

湯沢高原パノラマパーク（湯沢町）
世界最大級のロープウェイで約7分、高山植物の楽園へ。ジップラインやサマーボブスレーなどアクティビティも充実している。問湯沢高原パノラマパーク
☎025-784-3326

八海山（南魚沼市）山岳信仰の山として知られる。4合目のロープウェー山頂駅からは佐渡島まで見渡すパノラマが楽しめ、観光客も多い。問八海山ロープウェー☎025-775-3311

上の原菖蒲園（南魚沼市・上の原高原）
約100種8000株の菖蒲の清楚な花が咲き誇る人気のスポット。菖蒲の見ごろは7月上旬〜中旬。問(一社)南魚沼市観光協会☎025-783-3377

※花の見ごろは気候によってことなります。各観光協会へお問い合せください。

八海山火渡り神事
（南魚沼市・八海神社城内口里宮）6月24日㊐。行者が御祈祷の声とともに素足で火中を渡る迫力の奇祭神事。問八海会館（八海神社社務所）☎025-775-2693

しねり弁天たたき地蔵祭（魚沼市小出・諏訪町弁天堂周辺）6月30日㊏。男性は「しねり弁天」と声をかけて女性をつねり、女性は「たたき地蔵」と声をかけて男性を叩き子宝祈願をする奇祭。問魚沼市小出商工会
☎025-792-2124

住吉神社大祭（塩沢まつり）（南魚沼市・塩沢駅周辺）7月14日㊏〜16日㊊。踊り屋台、樽神輿、神楽、よさこい踊り、バンド演奏など。問南魚沼市役所商工観光課
☎025-773-6665

南魚沼市兼続公まつり（南魚沼市六日町）7月17日㊋〜19日㊍。「お六甚句」に合わせ千人超の市民が踊る「お六流し」など。最終日は大花火大会。問南魚沼市兼続公まつり実行委員会 ☎025-783-3377

うおぬま夏の雪まつり（魚沼市・交流センターユピオ）7月21日㊏・22日㊐。冬に降った雪を大量に保存して、真夏に雪を体験！大人気の雪上アトラクション「ユンボート」は気分爽快。魚のつかみ取り等も開催。問夏の雪まつり実行委員会
☎025-792-9754

FUJI ROCK FESTIVAL'18
（湯沢町・苗場スキー場特設ステージ）7月27日㊎〜29日㊐（前夜祭26日）。国内外からアーティストが多数出演する、日本最大級の野外ロックフェスティバル。問http://www.fujirockfestival.com/

大地の芸術祭　越後妻有アートトリエンナーレ2018（十日町市・津南町）7月29日〜9月17日。3年に一度開催される世界最大規模の国際芸術祭。※本紙特集参照
問大地の芸術祭実行委員会事務局
☎025-757-2637

夏の天空雪まつり in 八海山（南魚沼市・八海山ロープウェー山頂広場）8月4日㊏ 10時〜15時。保存しておいた雪を利用してのそり遊び、飲食ブースもあり、大人からこどもまで楽しめる。問八海山ロープウェー ☎025-775-3311

巻機権現火渡り（南魚沼市・巻機神社里宮）8月4日㊏。修験者たちがまだ燃え尽きない炎の中を素足で歩く神事。一般参加も可能。問清水観光協会（やまご）☎025-782-3402

小嶋屋は地産地消にこだわり
安心・安全な食の提供のため
地元の食材使用を心がけています

上質の玄そばとつなぎの布海苔、そして初代重太郎より受け継がれるこだわりの製法によって生まれる小嶋屋のそばは、独特の歯応え、のどごしが身上の、越後のそばを代表する元祖十日町へぎそば処です。地元はもとより全国からご好評頂いております。

健康にこだわり十日町市
枯木又の古代米を使用した「黒米へぎそば」

越後十日町 小嶋屋
●本　　店／十日町市本町４　TEL025-757-3155
●和(なごみ)亭／十日町市下島　TEL025-757-1513
●越後湯沢店／湯沢町（JR 駅構内）TEL025-785-2081
http://www.hegisoba.co.jp

おいしい新米お届けします
平成29年産

天日干し
特別栽培米コシヒカリ
5kg 5,000円

特別栽培米コシヒカリ
5kg 3,500円

「農ある豊かな未来へ」を
モットーに、心を込めて
栽培しています。

一般財団法人 魚沼農耕舎
〒946-0216 新潟県魚沼市須原20-5
TEL025-797-2255 FAX025-797-2562
http://www.uonuma-agri.or.jp/ Mail info@uonuma-agri.or.jp

NIIGATA PREF MUIKAMACHI HOT SPRING
RYUGON

二人だけの結婚式
●挙式（神前式）●衣裳 ●撮影
一式揃って28万円でお承りいたします。
（消費税・サービス別）

温泉御宿 龍言
〒949-6611 新潟県南魚沼市坂戸 79
TEL.025-772-3470 FAX.025-772-2124
https://www.ryugon.co.jp/

●編集部／株式会社みらい内 〒948-0065 新潟県十日町市高田町3丁目304-2 ☎025-752-0350 ●メール yukiarite@gmail.com
●発行所／北越印刷株式会社六日町営業所 〒949-6680 新潟県南魚沼市六日町479番地3 テルエルクボタビル 3F ☎025-788-0891 本社／新潟県長岡市南陽2丁目949-8　営業所／東京、新潟、上越、六日町